

新城市民病院地域医療研修 研修レポート

名古屋第二赤十字病院

この度は4週間にわたり、新城市民病院総合診療科および関連施設での研修の機会をいただき、また多くの皆様にご指導いただき、誠にありがとうございました。特に印象に残ったことを中心に、学んだことをここに報告いたします。

まず印象的だったことは、高齢者の薬物療法の難しさです。高齢者では、加齢に伴い、腎機能や肝機能が低下して、薬の作用に個人差が出てきます。また、多くの薬剤を併用することは、薬物相互作用や薬物有害事象のリスクを高めるうえ、服薬アドヒアランスを悪化させることが知られています。しかし、新城市民病院に入院される患者さんの多くは、複数の慢性疾患を抱え、その治療のために何種類もの内服薬・注射薬を併用しておられました。総合診療科の先生方は、入院を契機に積極的に処方内容を見直し、患者さんそれぞれのニーズに合わせて投薬計画の調整をするように努めていらっしゃいました。現在処方されている薬物一つ一つが、患者さんの余命や治療目標を考えたときに本当に必要かどうか、といった検討を重ねることは、恥ずかしながら初めての経験であり、とても有意義でした。薬はリスクであるということ、入院は薬剤調整のいい機会であるということが分かりました。

次に印象的だったのは、「病院を退院したら自宅での生活が待っているのだ」ということを、訪問看護・訪問リハビリへ同行させていただき経験を通じて実感できたことです。急性期病院で働く私は、患者さんが退院後に自宅での生活を取り戻していく様子をうまく想像できないまま、退院・転院していく患者さんを見送っていたように思います。訪問介護・訪問看護によって生活を維持している方や、訪問リハビリによってADLが改善していく方と出会い、一緒にケアに関わらせていただくことで、患者さんがどのような過程を経て生活機能を取り戻して自宅での生活に適応していくのかを目の当たりにしました。

最後に印象に残ったことは、医師の少ない地域ではやはりジェネラリストが強いということです。外来でも病棟でも在宅でも、全科的に考える視点を持ち、豊富な鑑別疾患を挙げながらそれぞれの愁訴に対応することができ、適切なタイミングで適切な医療機関と連携できるスキルが求められていると感じました。そして、そのようなスキルを持ち合わせている総合診療科の先生方が、新城市の医療を支えているのだと知りました。私が来年度から専攻する小児科においても、ジェネラルに、全身を診ることのできるスキルが重要視されています。総合診療科の先生方から診療における考え方を学べたことは、私の大きな財産です。

この研修で関わらせていただいた皆様と、またどこかでご縁があることを祈っています。本当にありがとうございました。